

S-13

さまざまなチーム医療連携 - 院内の6つのチーム医療との連携 -

前橋赤十字病院 NST¹⁾、かんわチーム²⁾、褥瘡対策委員会³⁾、
 クリニカルパス委員会⁴⁾、感染管理室⁵⁾、医療安全推進室⁶⁾
 ○伊東 ^{いとう}七奈子¹⁾、小川 ^{ななこ}哲史¹⁾、田中 俊行^{1,2)}、岡野 幸子²⁾、大西 一徳³⁾、
 木村 公子³⁾、安東 立正⁴⁾、笹原 啓子⁴⁾、丹下 正一⁵⁾、大澤 忠⁵⁾、
 加藤 清司⁶⁾、川井 ひで子⁶⁾、池谷 俊郎^{1,3,4,5,6)}

【はじめに】

当院にはNSTを含め、かんわ、クリニカルパス（以下、パス）、褥瘡対策、ICT、MRMの6つのチームが存在し、それぞれの分野の役割を果たすとともに、チーム間を越えた活動をしている。

今回、NSTの視点から、各チームとの連携への取り組みについて報告する。

【連携への取り組み】

1. かんわチームとの連携

かんわチームのリーダーが、NSTメンバーの医師であり、疼痛管理と共に終末期の栄養療法も考慮することが可能である。症例によりNST、かんわチーム、主治医が連携し個別の栄養療法を検討している。

2. パスとの連携

適切な栄養療法の普及のためパスと連携し、種々のパスにNSTによる栄養ケアマネジメントを組み入れた。特にPEG施行時のパスはNSTが作成し、バリエーション分析から、より質の高い栄養パスへと変更している。さらに、地域でのPEG管理と栄養療法の標準化を目指し、地域連携パスへと発展している。

3. 褥瘡対策委員会との連携

褥瘡対策委員会が行う回診にNSTが同行し、褥瘡の治癒に必要な創傷管理、徐圧管理、栄養管理のうち、NSTは栄養管理を担当し、褥瘡患者における栄養療法の普及に努めている。

4. ICT、MRMとの連携

感染やリスクマネジメントの観点から栄養療法に関する主に静脈栄養ラインや栄養チューブの選択、導入、取扱い方法などを検討している。

【まとめ】

NSTの視点から各チームとの連携への取り組みを報告した。今後も各チームの役割を最大限に発揮し、よりよい連携を目指したい。